

長 池 窯 跡 群

大阪府教育委員会
河内長野市教育委員会

長 池 窯 跡 群

大阪府教育委員会
河内長野市教育委員会

序 文

河内の南端に位置する河内長野市は、市域の約七割が山地部にあたります。そのため、林業が主要な地場産業としてあげられます。特に炭焼きでは、白炭といわれる茶道でもちいる高級品の生産が盛んで、江戸時代からの特産物になっています。

市内において木炭を生産した木炭窯跡は、これまでにも多数発見されています。

もっとも古いものは、三日市遺跡で発見された古墳時代の終わり頃に作られたものです。そして、とりわけ奈良時代の終わりころから平安時代、さらに中世にかけて木炭の生産量は増え続け、それに伴って木炭窯の数も急増します。また従来は一基ずつ単独で作られていたものから、複数の木炭窯で窯跡群を形成するようになります。

今回の調査は、河内長野市と大阪狭山市を南北に結ぶ府道大野天野線の建設に伴うもので、調査の対象となった長池窯跡群は、河内長野市域における代表的な木炭窯跡群です。新たに発見された2基の木炭窯の発掘調査を実施し、多くの成果をあげることができました。

木炭窯跡の調査ではほとんどの場合、土器などの遺物が共伴することはありません。したがって、木炭窯の操業時期を特定することは大変困難です。しかし、今回の調査で検出した木炭窯からは、窯の廃棄の際におこなったマツリに使われた土器が出土しました。これによって木炭窯跡の年代を特定することができました。大変小規模な調査でしたが、大きな成果をあげることができたと言えます。

本調査の実施にあたっては、大阪府都市整備部をはじめとする関係各位に、多大なご協力を賜りました。深く感謝いたしますとともに、今後とも文化財保護行政に一層のご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年3月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長 荒井大作

序 文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、緑豊かな山々や清らかな河川に恵まれ、旧石器時代から人々の活動の痕跡が認められています。古代では中央政権で活躍する高向玄理がこの地から出ており、今に続く文化の香り高いまちと言えます。中世には、真言宗の一山寺院である觀心寺、金剛寺が隆盛を極め、海外にも紹介された烏帽子形城が築城されます。また、近世には、高野山と京都・大阪・堺を結ぶ東・中・西高野街道が市内で合流することに代表されるように交通の要衝として発展してきました。これらのことから、市内には数多くの文化財が遺され、国の指定を受けた建造物や美術工芸品等が84件、史跡が3件にのぼります。

これら先人達のメッセージである文化財を保護・保存し、現在の、更には未来の市民へと伝えていくことは、現代に生きる私達の責務であると重く受け止めていることから、本市においては、教育立市宣言の一つの柱として「文化財のまち」を位置づけ文化財保護に取り組んでおります。

本書は、府道大野天野線整備に先立ち実施した長池窯跡群の発掘調査の成果を収録しています。皆様の文化財への理解を深めていただくと共に、文化財の保護・保存・研究するための資料として活用していただければ幸いです。

調査にご協力しいただきました方々に、末尾ながら謝意を表すものです。

平成26年3月

河内長野市教育委員会

教育長 和田 栄

例　　言

1. 本書は、大阪府教育委員会が大阪府都市整備部の依頼を受けて実施した一般府道大野天野線道路整備工事に伴う、河内長野市小山田町所在、長池窯跡群の発掘調査報告書である。
2. 本調査の調査番号は、12085（府）、N I K12-1（市）である。
3. 現地調査は、大阪府教育委員会文化財保護課調査第二グループ主査小林義孝、河内長野市教育委員会ふるさと文化課島津知子を担当者とし、平成24年5月29日から平成24年6月28日まで実施し、遺物整理作業は、平成25年度に島津を担当者として河内長野市立ふるさと歴史学習館において実施した。
4. 出土遺物・記録資料などは、本府教育委員会において保存・管理している。
5. 検出遺構の写真撮影および、本書の執筆・編集は、小林、島津、尾谷雅彦（河内長野市教育委員会）が担当した。
6. 出土遺物の写真撮影は、有限会社阿南写真工房に委託した。
7. 発掘調査・遺物整理および、本書の作成に要した費用は、大阪府都市整備部が負担した。
8. 本書は、300部作成し、一部あたりの印刷単価は、259円である。

本文目次

序文

例言

本文目次 挿図目次 図版目次

第1章 調査の経過.....	1
第2章 位置と環境.....	2
第3章 長池窯跡群と既往の調査.....	6
第4章 調査成果.....	10
第5章 まとめ.....	14

図版

報告書抄録

挿図目次

第1図 河内長野市内遺跡分布図 (1/40000)	
第2図 2003年度調査 S Y 1 平面図・断面図 (1/30)	
第3図 2003年度調査 S Y 2 平面図・断面図 (1/30)	
第4図 調査区位置図 (1/5000)	
第5図 遺構平面図・断面図 (1/50)	
第6図 S Y 1 平面図・断面図 (1/30)	
第7図 S Y 2 平面図・断面図 (1/30)	
第8図 出土遺物実測図	
第9図 長池窯跡群分布図	

図版目次

図版1 2012年度調査区： 調査区全景 (南から)	調査区全景 (南西から)
図版2 2012年度調査S Y 1 : S Y 1 (西から)	S Y 1 (南西から)
図版3 2012年度調査S Y 2 : S Y 2 (西から)	S Y 2 (南西から)
図版4 出土遺物： 2012年度調査S Y 2 出土遺物	2003年度調査出土遺物
図版5 2003年度調査S Y 1 : 全景 S Y 1 (北から)	
図版6 2003年度調査S Y 2 : S Y 2 (東から)	S Y 2 (南から)

第1章 調査の経過

大阪狭山市大野から国道170号（外環状線）を結ぶ一般国道大野天野線のうち河内長野市小山田町と上原西町の間の区間の工事に先立って一帯に分布する長池窯跡群の発掘調査を実施した。

大野天野線の取り付け道路部分の確認調査を平成25年（2003）8月25日から10月21日の工期で実施した。5カ所の確認トレンチを設置し、その内の1カ所から2基の窯状遺構を確認した。小規模な遺構であったので確認調査と同時に発掘調査を実施、記録保存の措置を完了した。当該調査は、大阪府教育委員会文化財保護課と河内長野市教育委員会ふるさと文化課が共同で実施した。

平成18年度（2006）には周辺の市道部分との接続部分などの工事に当って立会調査を実施している。

本書で報告するのは、平成24年度（2012）に実施した赤峰丘陵を横断する赤峰トンネルの建設工事に先立つ発掘調査の成果である。

まず予定地の確認調査を大阪府教育委員会文化財保護課と河内長野市教育委員会ふるさと文化課が共同で実施した。当該地は竹林に覆われた深い谷筋にあたり、現地の表面観察によっては詳細な原地形を確認できなかった。工事に先立って伐採工事を行い、順次確認トレンチを設置した。この内の1カ所で窯状遺構が検出されたため、事業者と直ちに協議を行い、当該遺構周辺の発掘調査を実施することとなった。同様な遺構は複数がまとまって造営されている事例が多いため、発見地周辺において同様な地形的な特徴をもつ地点について再度確認調査を実施した。

検出された遺構は、重複して存在していた2基の窯状遺構である。

遺物整理などの作業は本年度、河内長野市立ふるさと歴史学習館で実施し、本書を作成した。

（小林）

第2章 位置と環境

1. 地理的環境

河内長野市は南河内地域で最も南に位置し、石川流域においては、最上流部を占めている。旧国では河内にあるが、東は大和、南は紀伊、西は和泉に接する。市域には、天見川、石川が南北に流れおり、市域北部で両河川が合流する。市内の大部分が丘陵と河岸段丘であり可耕地は少ないが、交通の要衝であり特に中世以降は高野街道の発達とともに栄えてきた場所である。

当該遺跡は、市域の北西部を占める小山田丘陵（赤峯丘陵）に立地している。

2. 歴史的環境

当該遺跡周辺において、人間の生活の痕跡が確認できるのは、旧石器時代に遡る。旧石器時代の遺跡は、石川流域に高向遺跡・上原遺跡が、天見川流域に三日市遺跡が所在し、市内北西部にある小山田丘陵には寺ヶ池遺跡が所在している。なお、寺ヶ池遺跡では、有舌尖頭器が採集されている。

縄文時代になると遺跡の数は増加し、市域では早期から晩期まで、各時代の遺跡が見つかっている。市内最古の早期押型文土器が出土した高木遺跡、中期の竪穴住居が検出された宮山遺跡、晩期の土器棺が見つかった三日市北遺跡などがあり、寺ヶ池遺跡では縄文時代の石器が表採されている。縄文時代の資料の乏しい、近畿地方においては、比較的豊富な資料が存在しているといえる。

三日市北遺跡は、弥生時代中期を中心とする遺跡である。しかし、若干ではあるが、弥生時代前期の遺物も出土しており、隣接する弥生時代後期の大師山遺跡が、三日市北遺跡と有機的な関連があるとすれば、I様式からV様式まで存続していることになる。

古墳時代前期には、全長50mの前方後円墳である大師山古墳が出現する。大師山古墳は天見川と石見川が合流する地点の東側の丘陵上に位置し、当該地域の地域首長墓と考えられる。大師山古墳は戦前と戦後の2度にわたって発掘調査が行われており、内行花文鏡1面、管玉8~9個、鎌形石1個、車輪石15~16個、石鉗16~17個、紡錘車4個、刀子1口、鉄劍3口以上、埴輪が出土している。主体部は粘土椁であったと推定されている。なお、市内では、これに続く首長墓の系譜は見いだせない。

古墳時代前期の集落遺跡としては三日市遺跡があり、竪穴住居6棟、土壙墓2基が検出されている。なお、三日市遺跡は、石川東岸の低位~中位段丘上に立地している。

古墳時代中期にはいっても市内には首長墳と考えられるような大型の古墳は確認されていない。市内で確認されている中期古墳は方形低墳丘墳であり、先述の三日市遺跡から4基の古墳が検出



第1図 河内長野市遺跡分布図 (1/40000)

第1表 河内長野市内遺跡地名表

番号	文化財名称	種類	時代	番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町以降	77	三国山城跡	城塁	平安以降
2	河合寺遺跡	社寺	平安以降	78	高岡寺遺跡	社寺	中世
3	朝心寺遺跡	社寺	平安以降	79	猪子城跡	城塁	中世
4	大師山古墳	古墳	古墳(後期)	80	蟹井御神社遺跡	社寺	中世以降
5	大師山南古墳	古墳?	古墳(後期)	81	川上神社遺跡	社寺	中世以降
6	大師山遺跡	集落・生産	高車(後期)	82	千代田神社遺跡	社寺	中世以降
7	興福寺遺跡	社寺	中世以降	83	向野遺跡	集落・生産	國文・奈安~云世
8	鳥居形古墳	社寺	室町以降	84	古野町遺跡	散布地	中世
9	坂穴古墳	古墳(後期)	古墳(後期)	85	上原北遺跡	集落	中世
10	長瀬寺遺跡	寺社	平安~近世	86	大日寺遺跡	社寺・古墳・埴塀	飛行~中世
11	小山田1号古墳	墳墓	允良	87	高向山遺跡	散布地	鎌倉
12	小山田2号古墳	墳墓	奈良	88	小山寺遺跡	集落	國文~奈良
13	足利寺遺跡	社寺	平安以降	89	加賀寺遺跡	集落	古墳(後期)
14	天野山金剛寺遺跡	寺社	平安以降	90	尾崎寺遺跡	集落	古墳~中世
15	日野城吉寺遺跡	社寺	平安~中世	91	ショウノマエ遺跡	城跡?	中世
16	地藏寺遺跡	社寺	中世以降	92	仁王山城跡	城跡	中世
17	岩瀬寺遺跡	社寺	平安以降	93	タコラ城跡	城跡	中世
18	古木古墳	古墳	古墳(後期)	94	野立之城跡	城跡	中世
19	高向遺跡	集落	田器・中世	95	上原近藤瓦窯	生産	古世
20	島原形古墳	城塁・生産	中世~近世	96	赤町東遺跡	散布地	飛生~中世
21	青爭町遺跡	集落	國文・古墳~中世	97	上田町岸跡	生産	古世
22	島原形古墳	古墳	古墳(後期)	98	尾崎北遺跡	集落	古墳~中世
23	末広原跡	生産	中世	99	西山町遺跡	散布地	中世
24	麻谷谷遺跡	散布地	國文~近世	100	野間里遺跡	集落	平安
25	武井八幡神社	社寺	平安以降	101	鳴尾寺遺跡	散布地	中世
26	蟹井圓滿遺跡	散布地	中世	102	上田町遺跡	散布地	古墳・中世
27	蟹井圓滿遺跡	散布地	中世	103	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
28	大見原北遺跡	散布地	中世	104	小野塚遺跡	墳墓	中世
29	手見原南遺跡	社寺	中世	105	船城第一~七号塚	経塚	平安以降
30	羽瀬桑原寺遺跡	社寺	中世以降	106	桑原御寺跡	社寺	中世以降
31	泊水遺跡	散布地	中世	107	野作遺跡	生産	中世
32	伝伊弉諾古墳	古墳?	古墳(後期)	108	今元遺跡	集落・社寺	奈良・中世
33	佐村城風穴跡	社寺	近世	109	猪原寺遺跡	散布地	中世
34	高須塚	塚	近世	110	法師原古墳跡	古墳	古墳
35	中村河原比賣神社	社寺	近世	111	山上溝山古墳跡	古墳	古墳
36	東の村綱首百濟	社寺	近世	112	西溝遺跡	集落	古墳・中世・近世
37	西の村綱首百濟	社寺	近世	113	地蔵寺跡	社寺	古世
38	清水河原比賣神社	社寺	近世	114	豆の下遺跡	集落	平安~近世
39	風尻佐助勤業堂跡	社寺	近世	115	柴町遺跡	散布地	飛生・古墳・中世
40	宮の下内堀	塚	古墳	116	越前町遺跡	散布地	中世
41	宮山古墳	古墳	古墳	117	太舟遺跡	散布地	國文・中世
42	宮山遺跡	集落	國文・奈良	118	越前北遺跡	集落	飛生・中世・近世
43	西代溝陣屋跡	散布地	飛鳥~奈良、江戸	119	古志西遺跡	集落	國文・中世
44	上原町城跡	城跡	近世	120	柴町東遺跡	集落	中世
45	曾替寺	社寺	國文・奈良・讃岐	121	柴町東遺跡	散布地	飛生・中世
46	第三山遺跡	城跡	中世~近世	122	梅町東遺跡	散布地	飛生
47	少ヶ森遺跡	散布地	國文	123	沖の宮町遺跡	散布地	飛生・奈良
48	上原町城跡	城跡	古石器~近世	124	沖の宮町東遺跡	散布地	中世
49	佐各神社遺跡	社寺	近世以降	125	神乃社社長御地	墳墓	近世
50	高須神社遺跡	社寺	中世以降	126	猪子城跡	社寺	中世以降
51	青が原寺神社遺跡	社寺	中世以降	127	三塚城跡	墳墓・城跡	中世~近世
52	猪子令所跡	城跡	江戸	128	松林寺跡	社寺	近世以降
53	反子塚古墳跡	古墳	近世	129	朝栄町遺跡	散布地	中世
54	豪子塚古墳跡	社寺	國文~奈良	130	東高野街遺跡	街道	平安以降
55	河合寺寺城跡	城跡	中世	131	西高野街遺跡	街道	平安以降
56	三日月遺跡	集落・古墳地	古石器~近世	132	高野街遺跡	街道	平安以降
57	日の谷城跡	城跡	古石器	133	上原東遺跡	散布地	飛生・中世・近世
58	高木遺跡	散布地	國文	134	地藏寺東方遺跡	墳墓	鎌倉
59	沙の山城跡	城跡	中世	135	本多町北遺跡	散布地	中世
60	峰山城跡	城跡	中世	136	下里町東遺跡	散布地	古墳・中世
61	福山城跡	城跡	中世	137	あかし白石遺跡	散布地	近世
62	因見城跡	城跡	中世	138	若狭北遺跡	集落	中世
63	猪籠城跡	城跡	中世	139	若狭西野東地	墳墓	近世
64	猪籠城跡	城跡	中世	140	朝栄町東遺跡	散布地・地路	國文・中世・近世
65	大津村遺跡	社寺	中世以降	141	三日月北遺跡	集落	飛生~中世
66	葛城第一・二号塚	経塚	平安以降	142	三日月南遺跡	宿駅に伴う街並	中世~近世
67	加賀田神社遺跡	社寺	中世以降	143	上田町宿	宿駅に伴う街並	中世~近世
68	庚申堂遺跡	社寺	近世以降	144	高尾遺跡	散布地	國文・近世・中世
69	石仏城跡	城跡	中世	145	赤町北遺跡	散布地	中世
70	佐古城跡	城跡	中世	146	太白遺跡	散布地	中世
71	猪籠城跡	城跡	中世	147	高岡神社南遺跡	集落	古墳
72	葛城第一・二号塚	経塚	平安以降	148	塚遺跡	散布地	飛生・古墳・中世
73	葛城第一・二号塚	経塚	平安以降	149	堺東城跡	散布地	國文・平安・中世
74	葛城第一・二号塚	経塚	平安以降	150	堺西原遺跡	散布地	國文・平安・中世
75	猪籠城跡	城跡	中世	151	奥田井遺跡	散布地	國文・平安・中世
76	大沢町	城跡	中世	152	大野街	街道	近世・中世

されている。

古墳時代中期の集落としては、古墳時代前期から引き続き三日市遺跡が存続しており、竪穴住居8棟と掘立柱建物2棟が検出されている。

市内では三日市遺跡で検出された三日市古墳群が後期群集墳として位置づける事が可能である。また、喜多町には烏帽子形古墳、大日寺古墳が単独で存在している。

小塙遺跡、尾崎遺跡、三日市遺跡、喜多町遺跡などは、古墳時代後期から古代かけて断続的に集落が存続する。この他、古代になると新たに、高向遺跡、野間里遺跡、向野遺跡などが成立する。また、このような集落遺跡の他に小山田丘陵では火葬墓が検出されており、小山田丘陵の長池窯跡群、石川流域河岸段丘上の日野観音寺遺跡、石見川流域の寺元遺跡では炭窯が検出されている。

中世には、市内の遺跡は急増する。これは高野街道の発展と金剛寺や觀心寺の中興が大きく影響していると思われる。また、高野街道沿いの集落遺跡や寺院では、貿易陶磁が集中的に出土している。

集落遺跡では、三日市遺跡、高向遺跡、尾崎遺跡、上原北遺跡、向野遺跡、野作遺跡、市町西遺跡、大日寺遺跡の調査で比較的広い面積からまとまった量の遺構が検出されている。この内、三日市遺跡では当時の集落域と墓域が検出されており、同様の状況は大日寺でも見ることができる。また、向野遺跡、野作遺跡、上原北遺跡では、集落遺跡に生業活動の一部を示す遺構、遺物がともなって検出されている。向野遺跡や野作遺跡ではフイゴの羽口、鉄滓、鋳型の破片が検出されており、鋳物・鍛冶関係の工房跡と見られている。また、上原北遺跡では、炭窯群と建物跡が近接した場所から検出されている。石見川上流の太井遺跡では、100基あまりの墓が見つかっている。

城館では烏帽子形城跡が発掘調査されており、主郭に相当すると考えられる郭から瓦葺建物跡が検出され、土師質皿、瀬戸美濃の天目茶碗、瓦が出土している。

(島津)

第3章 長池窯跡群と既往調査

1. 長池窯跡群の位置

長池窯跡群は河内長野市の西側に位置する小山田丘陵群に位置する。この丘陵群は標高約170m前後の赤峰丘陵を主丘陵として、この主丘陵から北乃至北東にかけて派生する5条以上の支丘陵（図A～D）からなり、窯跡が分布する。赤峯丘陵の東側縁部からは1970年に窯跡が検出され、棚原として報告されている。また、西側縁部には、今回報告されている調査地区的窯跡が位置している。そしてA丘陵の東側縁部からは平成15年度（2003年度）の調査で検出された窯跡がある。また、C・D支丘陵に分布する窯跡は1970年代の宅地造成によって現在は消失している。

2. 1971年の調査

本調査は宅地開発で発見され、調査されたものである。これらの窯跡は丘陵縁部に位置するもの4カ所と鞍部に位置する1カ所が検出されている。

丘陵鞍部No3（図9）に位置する窯跡は、調査で7基が検出されている。いずれも平面形はフラスコ形でフラスコの底部あたる部分が奥壁で煙道があり、体部が焼成部で横口があり、口縁部分が燃焼部に相当する。窯跡は重複しており、同時期に使用されていたのは3基程度である。

丘陵縁部で検出された窯跡は、No1で1基、No2で1基、No4で2基、No5で1基の5カ所5基検出された。これらの窯体はあまり残存状態が良くなく全容は判明しにくいが、平面形は長方形を呈し、横口も2カ所開けられているものと思われる。

3. 1975年度 棚原窯跡

本調査は工場拡張工事で発見され調査されたものである。この窯跡は赤峯丘陵の東側縁部No8に位置し、付近には窯跡No6・7も確認されている。

調査された窯跡は5基あり、1基はフラスコ形、他4基は平面形が長方形を呈する。横口は2カ所あるもの2基と3カ所以上あるものが2基検出された。

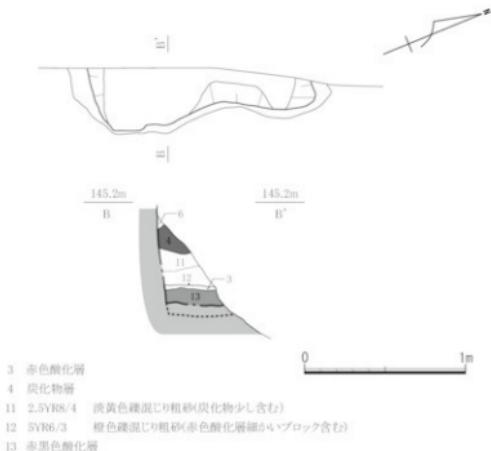
4. 2003年度の調査

石川の左岸には、河岸段丘の発達が見られる。その河岸段丘上の台地に並行するように和泉葛城山系から派生して南西から北東に向かって走る標高約170m前後の赤峯丘陵がある。

この赤峯丘陵からさらに派生する支丘陵が数条ある。その支丘陵のうち赤峯丘陵の西側を走る



第2図 2003年度調査S Y 1 平面図・断面図 (1/30)



第3図 2003年度調査S Y 2 平面図・断面図 (1/30)

A支丘陵の南東側斜面から2基の小型窯状遺構が検出された。検出の経緯は、平成15年（2003）8月25日から同年10月21日まで実施した「一般府道大野天野線同旅改良事業における埋蔵文化財確認調査」によるものである。調査は、河内長野市小山田地内に設定した5本の調査トレンチを設定して実施した。このうち丘陵縁部に沿って設定した第4トレンチで、東側の丘陵側から検出された。

各トレンチからの遺物の出土は少なく、中世・近世の陶磁器片などが出土したのみである。（図

版4)。

① S Y 1

平窯で窯体は斜面で検出したため谷側は削平を受けていた。平面形態は焼成部が長方形を呈する。残存長2.27m、主軸方向N-28-E、残存焼成部幅1.02m、残存奥壁幅0.95m、残存奥壁高0.1mを計る。煙道は直径0.2mで奥壁中央から外に穿たれており残座高0.1cmであった。燃焼部は奥壁から1.4mで焚口に向かって窄まってゆく。左側側壁は高さ0.23mで残存していた。床面はフラットで直径15cm程度の石が5個検出された。奥壁に向かって右側壁には幅30cmの横口が1カ所開けられているが、形態からもう1カ所開けられていた可能性は高い。

② S Y 2

S Y 1の北西側約1mで検出された。この遺構は調査区端で検出したため、遺構の大部分は調査区外にあり、全容は判明しないが平窯である。窯体の検出長は1.64m、幅0.41m。断面から観察すれば、窯体の焼成部を縦断したと推測される。

この小型窯状遺構の性格については、窯体内部に遺物の残存が見られないこと、焼成が酸化層を形成するだけであり、あまり高温にはなっていないことから土器生産における素焼き窯あるいは炭窯(白炭)の可能性があげられる。

しかし、長池窯跡を含む河内長野市域が古代から窯業生産地帯とは認識されていないことや未焼成の土器や灰原などが出土していないことなどから土器焼成窯の可能性は低い。

一方、炭生産については、製鉄遺跡での製炭遺構の検出例や平安時代の文献に記されている「白炭免田」や中世の「坪炭」、また近世には「光滝炭」の名で当地方の特産品として知られている。のことからも、これらの窯状遺構は製炭遺構と考えて差し支えないと思われる。

5. 窯の分類

長池窯跡群及び他の市内遺跡から検出された窯跡は、奥壁に煙道、側壁の片側に横口を有する平窯である。これを平面形態と横口の数により大まかに分類した。特に長方形を呈する窯体の長さは2m~5m以上と変化するが、幅は約0.8m~1.2mの範疇で取まるようである。

Aタイプ 横口が3カ所以上 平面形が長方形 長さ5m以上

長池窯跡群No.8(図9)、三日市遺跡

Bタイプ 横口が2カ所 平面形が長方形2m以上

長池窯跡群No.1、No.2、No.4、No.5、No.8(図9)、寺元遺跡、高向神社南遺跡

Cタイプ 横口が1カ所 平面形がフラスク形 2m以内

長池窯跡群No.3、No.8(図9)、大師山遺跡、上原北遺跡、宮山遺跡、天野山金剛寺遺跡、日野観音寺遺跡

6. 窯の時期

窯の築造、使用時期については、年代を決定できる出土する土器は少なく、苦慮するところである。土器を出土しているのは、長池窯跡群で瓦器椀底部と土師質甕口縁が出土している。瓦器椀底部だけなので時期の決定は危険ではあるが、和泉型瓦器椀編年に強いて当てはめればII-3からIII-1期に該当できる。一方、窯跡の熱残留磁気測定が実施されており、測定位結果からの年代は報告書の中で示されている。この結果を見れば±25~50年あるが、Aタイプは700年代、Bタイプは700年代後半、Cタイプは1100年代が示されている。

のことから概ねAタイプは8世紀、Bタイプは8世紀後半、Cタイプは12~13世紀ごろには使用されていたものと考えられる。

小 結

河内長野市域は、市域の約7割は山地であり、このため、林業も主要な地場産業のひとつとなっている。特に炭の生産は、1960年代の燃料革命が起こる以前は、盛んに生産されていた。江戸時代には狭山藩北条氏領であった滝畠一帯で生産されたものが「光滝炭」呼ばれ、有名な特産品であった。特に白炭は京都の公家社会や諸大名に茶道用に珍重され、狭山藩は販売を禁止し、藩専売とした。

南北朝時代の観心寺文書には「坪炭」の記載があり、寺領である周辺の川上谷周辺で生産されていたのであろう。また、観心寺に接する寺元遺跡からは窯跡が検出されている。更に、平安時代の天野山金剛寺文書には「白炭免」の記載があり、寺に白炭が貢納されていたのが田地化されたのであろう。また、三日市遺跡から検出された横口を6か所ある窯跡は6世紀末の年代が考えられ、河内長野市域ではこの時期から炭の生産が行われていたと思われる。

今回、報告した長池窯跡群の立地する小山田丘陵は、天野山金剛寺領天野谷に接し、寺領の範囲に組み込まれていた可能性が高い。このことから、小山田丘陵で生産された炭が寺に貢納されても不思議ではない。

(尾谷)

〔参考報告書〕

『長池窯跡発掘調査概要』(1971年)、『棚原窯跡発掘調査概要』(1976年)、『河内長野市埋蔵文化財調査報告書II』(1988年)、『河内長野市埋蔵文化財調査報告書XVII』(2001年)、『河内長野市埋蔵文化財調査報告書XXX』(2004年)（以上、河内長野市教育委員会発行）、『寺元遺跡』『河内長野市遺跡調査会報VI』(1995年)、「天野山金剛寺遺跡」『河内長野市遺跡調査会報VIII』(1994年)、「高向神社南遺跡」(大阪府埋蔵文化財調査報告2009-6) (2009年)

第3章. 調査成果

1. 調査区と基本層序

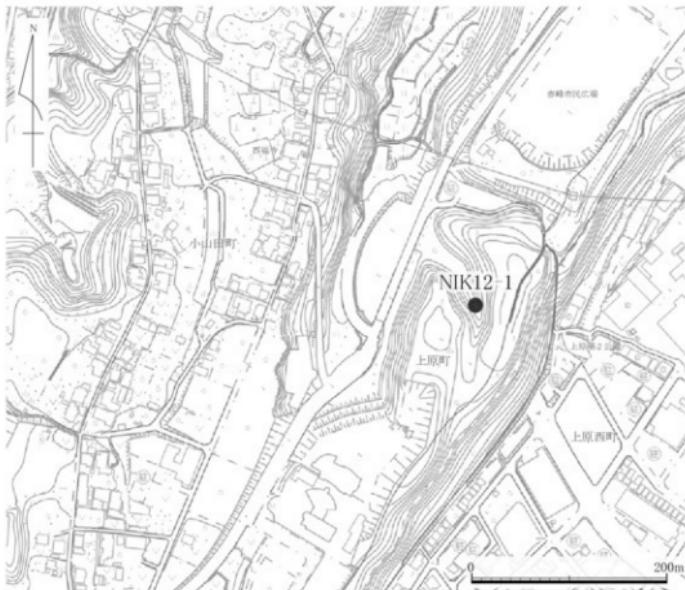
今回の調査は、府道大野天野線建設に先立ち平成24年2月17日から4月15日に当該遺跡の範囲確認調査を実施したところ、窯跡とみられる遺構が検出されたことから、本調査を実施したものである。調査面積は36m²。平成24年5月29日から6月28日にかけて現地調査を実施した。

調査地は、尾根に挟まれた谷筋の最奥にあたり、標高156m付近に位置している。表土（層厚約0.2m）、黄褐色砂（層厚約0.3m）を人力により掘り下げ、遺構検出を行ったところ、高熱を受けて赤褐色に酸化した炭窯跡を2基検出した。

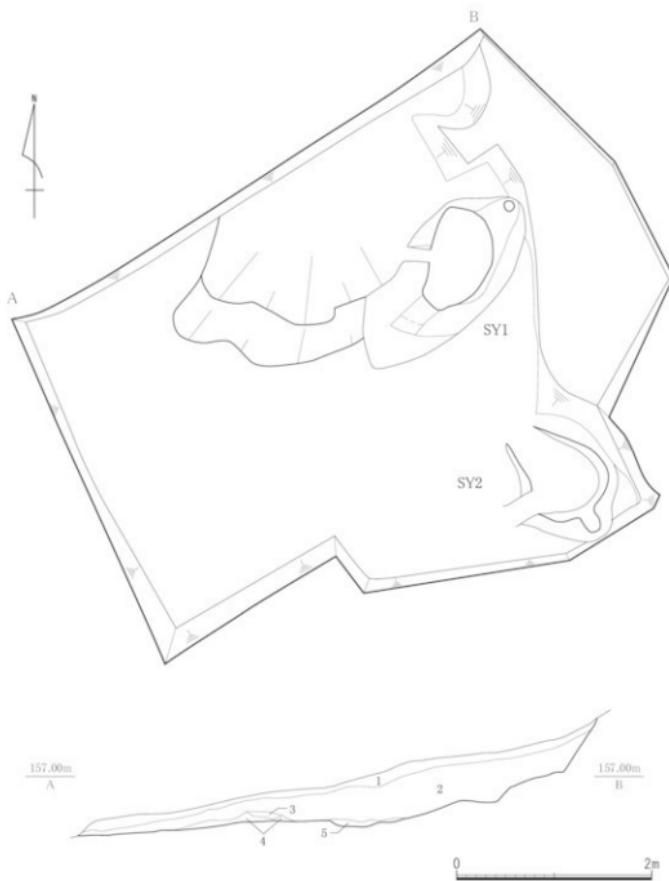
（2）遺構と遺物

木炭窯が2基検出された。

S Y 1は、窯体の主軸方向がN-45°-E、長さ2.7m、幅1.2mで、焚口に向かって幅が狭なるイチジク形（逆三角形）を呈すCタイプである。奥壁に煙道、煙道の反対側正面に焚口、側面に炭を掻き出すための横口が北西側に1箇所設けられている。煙道の直径が0.15m、奥壁の高さ

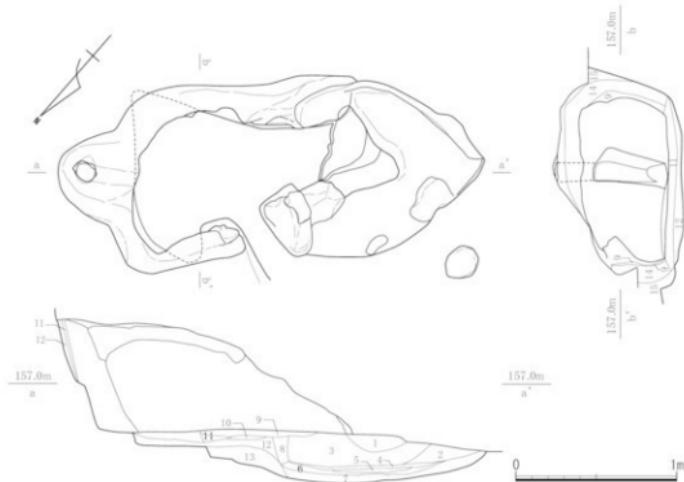


第4図 調査区位置図 (1/5000)



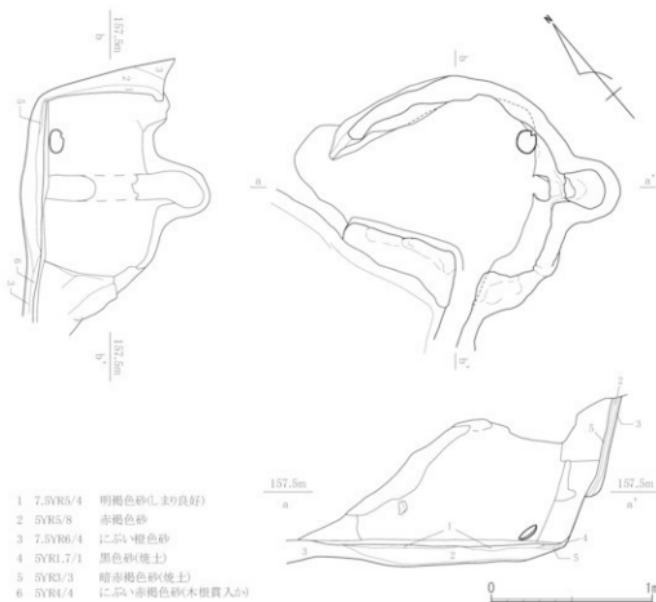
- 1 10YR3/4 暗褐色 砂(腐葉土)
- 2 10YR5/8 黄褐色 シル(竹・木根多く含む)
- 3 7.5YR5/6 明黄褐色 砂(粒子細かく、焼土混じり)
- 4 10YR5/8 黄褐色 シル(2層とは混同)
- 5 10YR1.7/1 黒色 砂(しまり不良、炭を含む)

第5図 遺構平面図・土層図 (1/50)

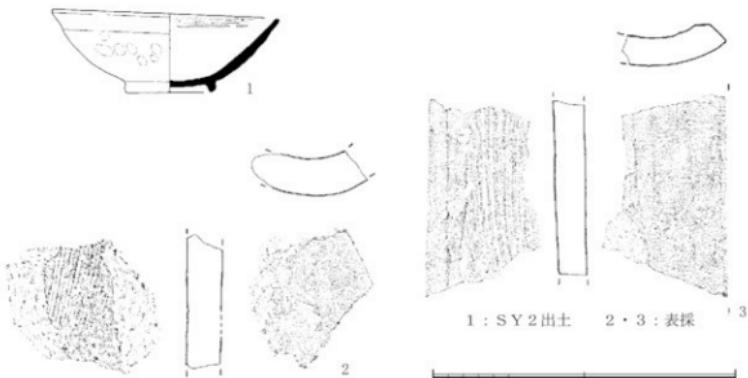


- | | | | | | |
|------------|--------------------|------------|----------|-------------|------------|
| 1 7.5YR5/4 | にぶい褐色砂 | 6 5YR3/4 | 暗褐色砂(焼土) | 11 5YR2/4 | 極暗赤褐色砂(焼土) |
| 2 7.5YR5/8 | 明褐色砂 | 7 5YR4/6 | 赤褐色砂 | 12 5YR4/8 | 赤褐色砂 |
| 3 5YR5/8 | 明黄色砂(2層に焼土ブロック混じる) | 8 2.5YR4/8 | 赤褐色砂 | 13 7.5YR5/6 | 明褐色砂 |
| 4 5YR5/4 | にぶい褐色砂(焼土) | 9 7.5YR5/6 | 明褐色砂 | 14 5YR5/8 | 明赤褐色砂(焼土) |
| 5 5YR2/2 | 黒褐色砂(焼土) | 10 5YR4/8 | 赤褐色砂(焼土) | 15 7.5YR5/6 | 明褐色砂(粘性あり) |

第6図 SY1平面図・断面図 (1/30)



第7図 SY2平面図・断面図 (1/30)



第8図 出土遺物実測図

が0.7m、横口の直径が0.2m、焚口の直径は0.4mを計る。窯内部には赤褐色砂ブロックが混じる黄褐色シルトが堆積しており、遺物は出土しなかった。なお、横口の前面には、木炭とみられる炭化物の堆積が認められた。

S Y 2は、窯体の主軸方向がW-47°-N、長さ1.5m、幅1mでイチジク形（逆三角形）を呈するCタイプである。奥壁に煙道、煙道の反対側正面に焚口、西側面に横口が1箇所設けられている。煙道の直径が0.25m、壁の高さは残りの良い所で0.8m、横口の直径が0.15mを計る。窯内部には赤褐色砂ブロックが混じる黄褐色シルトが堆積し、奥壁際の床面からほぼ完形の瓦器椀（第8図1）が1点出土した。

瓦器椀は、口径15cm、器高5.6cm、高台は張り付け高台で、高台径6cm、高台高0.8cmである。調整は、体部外面にユビオサエ、内面は摩耗が著しいもののミガキ、口縁部にヨコナデが施されている。内外面ともに黄褐色を呈している。口縁内側の一部に煤の付着がみられる。12世紀半ばごろの瓦器椀であるとみられる（図版4）。

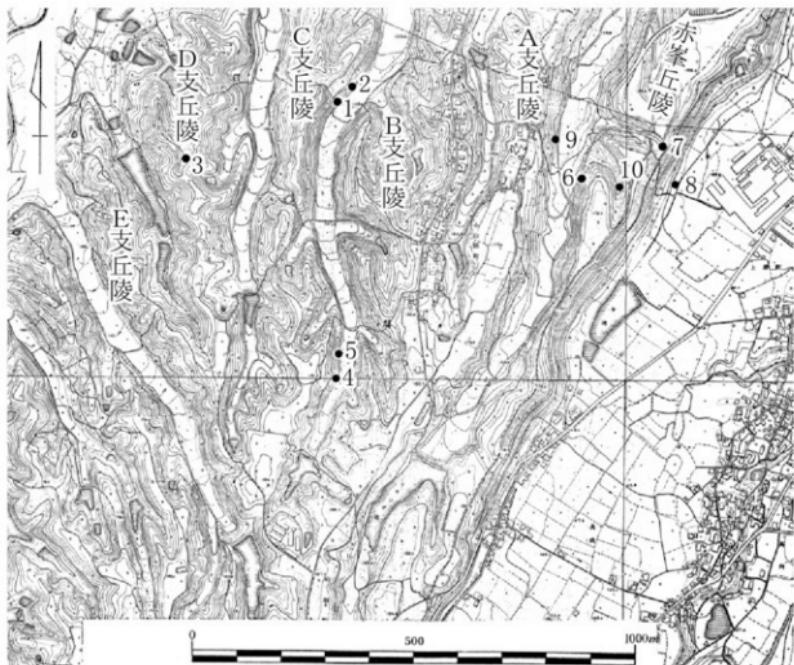
なお、調査地周辺の表探資料として平瓦（第8図2・3）が見つかった。時期は不明であるが、いずれも比較的新しい時期のものであり、近世以降の所産であると考えられる。 (島津)

第4章 まとめ

今回の調査では、木炭窯（SY2）に伴い瓦器碗が出土したことが特徴的である。河内長野市内で検出され木炭窯跡で遺物が伴う事例は非常に少ない。出土状況から考えて、この瓦器塊は木炭窯廃棄に際して埋められた可能性が指摘でき、市内で初めての木炭窯廃絶時の祭祀を想起させる事例となった。この瓦器碗は概ね12世紀半ばごろのものであると考えられることから、SY2の廃絶時期も、これに近いころであると推測される。

また、SY1は、一度木炭窯を築き、再度同じ場所で少し位置をずらし、窯を築いていることが、断面観察から判明した。この場所で繰り返し操業する何等かの理由があったのであろう。

中世以降、河内長野の特産品として、炭が珍重されてきたことが、文献などから知られていたが、発掘調査成果からもそれを裏付けることができた。(島津)



第9図 長野窯跡群分布図

図 版



調査区全景（南から）



調査区全景（南西から）



S Y 1 (西から)



S Y 1 (南西から)



S Y 2 (北西から)



S Y 2 (南西から)

図版四 出土遺物



2012年度調査 S Y 2 出土遺物



2003年度調査出土遺物

図版五 二〇〇三年度調査 S Y 1



全景

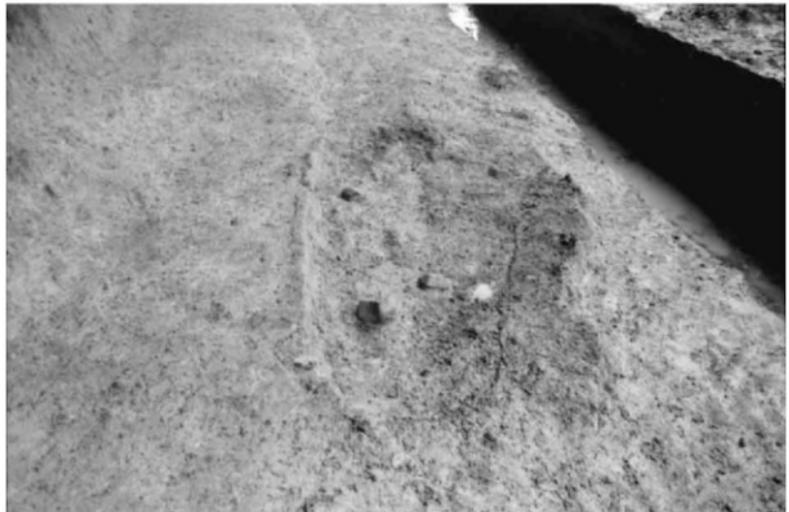


S Y 1 (北から)

図版六 二〇〇三年度調査 S Y 2



S Y 2 (東から)



S Y 2 (南から)

報 告 書 抄 錄

ふりがな	ながいけかまあとぐん
書名	長池窯跡群
副書名	
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2013-5
編著者名	鳥津知子、尾谷雅彦、小林義孝
編集機関	大阪府教育委員会、河内長野市教育委員会
所在地	大阪府教育委員会 〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 TEL. 06-6941-0351(代表)
所在地	河内長野市教育委員会 〒586-8501 大阪府河内長野市原町1丁目1番1号 TEL. 0721-53-1111(代表)
発行年月日	平成26年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯 °°°	東經 °°°	調査期間	面積(m ²)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
長池窓跡群	大阪府河内長野市小山田町	27126	府12 市10	34° 27° 05"	135° 33° 04"	平成25年5月29日 ～ 平成25年6月28日	36m ²	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長池窯跡群	窯跡	中世	木炭窯跡	瓦器碗	遺物の出土によって木炭窯の操業時期を特定することができた。
要 約	木炭窯2基検出され、そのうちの1基から瓦器碗が出土し、操業時期を特定することができた。				

大阪府埋蔵文化財調査報告 2013－5

長池窯跡群

発行 大阪府教育委員会

〒540-8571 大阪市中央区大手前2丁目

TEL 06-6941-0351 (代表)

河内長野市教育委員会

〒586-8501 河内長野市原町1丁目1番1号

TEL 0721-53-1111 (代表)

発行日 平成26年3月31日

印刷 株近畿印刷センター

〒582-0001 柏原市本郷5丁目6番25号